

授業科目名	異文化関係論	大学名	作新学院大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	後期 (9月16日～1月16日)
学部・学科等	人間文化・心理コミュニケーション	曜日	火曜日
必修・選択区分	選択	時限 (時間)	3時限 (13時00分～14時30分)
標準対象年次	2年生以上	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	作新学院大学
担当教員名	玉城 要		
電話番号 (代表者名)	028-667-7111	e-mail アドレス	
オフィスアワー	授業終了時に面談の予約を取ってから、質問や相談に応じる。		

授業の概要

<授業の目標及びねらい>
「異文化関係」というと、自分の日常生活とは直接関係のない「どこか遠くの難しい話」と感じるかもしれません。私たちは何らかの人間集団に属して生きています。その集団の構成員には共通した価値観や活動の様式があり、それが「文化」として「モノ」と「ココロ」の両面に現れてきます。また、私たちは集団の構成員としてだけでなく個人としても様々な価値観を持ち、それに基づいて「文化」を生みだしているとも考えられます。広い意味で、私たちは日常的に「異文化関係」の中にあると言ってもいいでしょう。この授業では、異なる文化がどのように関係している (いた、いく) のかを、できるだけ「身近なところから始めて遠くに行きすぎない範囲で」考えます。学生のみなさんに「異文化関係」を意識するいろいろなきっかけを提示するつもりなので、あえて統一テーマは設けません。

<前提とする知識・経験>
このシラバスに書かれている事柄を読んで理解できるだけの日本語力があれば十分です。

<授業の具体的な進め方>
毎回、担当教員が準備した空欄補充形式の講義資料をもとに講義を行う。授業終了時に、授業内容の確認、次回の授業の予備学習を兼ねた簡単なクイズを実施する。
※オンライン授業の場合は、スライド資料のpdf ファイルを提示する (音声、動画は含まない)。話ことばを意識した文字主体の資料とします。読めば十分に理解できます。学生は、毎回、授業終了時に授業の内容に関連した簡単な課題を解答・回答する。

<授業計画>
第1週 「異文化関係」とは「遠くの難しい話」なのだろうか
第2週 新渡戸稲造『武士道』とキリスト教
第3週 新渡戸稲造『武士道』と儒教・仏教・神道
第4週 現代人と「武士道」
第5週 内村鑑三『代表的日本人』その①西郷隆盛と上杉鷹山
第6週 内村鑑三『代表的日本人』その②二宮尊徳と中江藤樹
第7週 お茶をめぐる文化…陸羽『茶経』と岡倉天心『茶の本』
第8週 お茶をめぐる文化…中国・日本・英国・その他
第9週 中国の童蒙書『三字経』をめぐる…『本朝三字経』から『西洋三字経』へ
第10週 女訓書をめぐる…『列女伝』から『女三字経』、明治近代女子教育と中国の女子教育
第11週 渋沢栄一と『論語』…経済学と古典の接点
第12週 湯川秀樹と『老子』『荘子』…先端科学と古典の接点
第13週 沖縄あれこれ…中国から日本へ
第14週 沖縄あれこれ…日本からアメリカへ、そしてふたたび日本へ
第15週 沖縄あれこれ…「あの世」との関わり

<教科書・参考書・教材と入手方法>
教科書は用いない。毎回、プリント資料を配布する。

<成績評価法>
毎回の授業終了時に行う内容確認と (80%)、学期末の最終試験 (20%)の結果を総合して評価する。授業の2/3 (10回) 以上出席しないと評価の対象としない。(単位を取得できない。)

<教員からのメッセージ>
普段の生活の中で意識的に「何で?」「どうして?」と問いかけてみてください。その問いかけから、思いもよらない「物事」のつながり、関係性が浮かび上がってくるかもしれません。